

## 何にもないからいい

親戚の誘いを受け、前から田舎暮らしを望んでいた日野さん一家は、1年ほど前に那須烏山市にやってきた。日野さんが移住した小さな集落にどんな魅力があるのだろうか。

意外にも、日野君香さん・正寛さんは「子育てに最適だ」と語る。「子供たちがこんなに元氣いっぱい遊ぶことのできる環境はなかなかない。森の探検や魚釣りなど、ここでしかできない遊びがたくさんある」と言うのだ。子供が遊べる場所が少なくなっている現代で、遊びのフィールドが自然の中というのは、大きなポイントだ。大人になると自然と触れ合う機会は減っていく。今しかできないことを最大限に楽しむことができることは、ここに住む魅力といえるだろう。

生活を1から創り上げられるのも楽しみの1つだ。生活の全てを自分たちだけで賄っているわけではないが、できることは自分たちでやるように心がけていた。野菜を育てたり、薪割り



〈プロフィール〉

日野君香さん  
栃木県宇都宮市出身 37歳  
ターバン作家

日野正寛さん  
鹿児島県出身 33歳  
主夫

をしたりしながら生活している。日々の暮らしを、食などを通して創り上げることができるよう、自然豊かな那須烏山だからこそ。さらに、自ら生活を創り上げることで生きる力が身につくのも大きなポイントだと話していた。

現代の暮らしは、他人の力に依存していることが多い。そんな中で、自分だけで何かを生み出せる力を身につけるには、もってこいの環境といえる。

## 仕事は趣味の延長

君香さんの仕事は、ターバンの製作・販売。自宅でターバンを作り、インターネット上で販売している。作り始めたきっかけは、「ターバンが好き」というシンプルな想いだった。3年半ほど前から作り始め、今ではそれが仕事となり、人生の一部となっている。やりがいや何うと、「全てがやりがい」と答えた。イメージを形にすること、買ってもらえることなど、全てのこと。日野さんの原動力になっているようだ。きつと自分の好きなことを仕事にしていることで、全てを楽しむことができるだろう。

ターバンの注文は1日に何件も来る。なるべく早くこたえるために、決まった休みは作らない。好きなこととはいえ、一人で毎日たくさんのター



▲ターバンについて  
楽しそうに語る君香さん

バンを作るのは簡単ではない。それでも休まず働くのは、一人ひとりのお客さんに喜んで欲しいからだ。楽し

みながらも、お客さんのことを第一に考え、絶え間なく働くその姿は、まさにプロフェッショナルな職人といえる。楽しみながらやること、お客さんを思いやって仕事をする、これが日野さんのスタイル。

## 愛情を注げるのは今だけ

子供は成長が早く、一緒にいられる時間は限られている。多くの愛情を注ぎ、多くの思い出を作るために、「子供たちと一緒にいれる時間を大切にしたい」と語っていた。



▲愛情あふれる日野さん一家

正寛さんは主夫として家事を受け持ち、君香さんをサポート。そうすることで、君香さんはターバン作りに集中でき、早く作業を終え、子供たちと多くかわることができるようになった。子供たちは、父親との時間を一般の家庭より多く過ごすことができているようだ。父親は働くべきだという固定概念にとらわれず、自分たちの家族の形を見つめることがこれから必要になってくるはず。一緒に過ごす時間が増えることは、親だけでなく子供たちにとってもいい思い出となる。愛情をたっぷり注げる今を大切にしているご夫婦の生き方が印象的だった。

担当・多賀龍弥